

## 耳鼻咽喉科

2024年度の医師スタッフは野田、高橋、植田の常勤3名体制であった。非常勤医師は耳外来担当の喜多浜松医大助教と手術応援の今井浜松医大講師、加納浜松医大助教、喜多浜松医大助教である。

耳鼻咽喉科の主な診療内容は、中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺などの耳疾患、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎などの鼻疾患、咽喉頭の急性炎症や頭頸部腫瘍に対する治療がある。当科ではバランスのとれた診療を目標に、幅広い分野での疾患の受け入れをしている。入院患者さんも急性疾患、めまい、頭頸部腫瘍（悪性含む）など多岐にわたる。

2024年の手術室での手術は213件（2023年は202件、以後括弧は2023年手術件数）、うち全身麻酔は184件（165件）で増加した。詳細をみると（以後は左右ある場合は2件として計測）、鼻科手術は72件（78件）、喉頭微細手術13件（7件）、甲状腺手術28件（34件）、リンパ節生検術26件（33件）、気管切開術7件（13件）、その他頸部手術35件（37件）であった。鼓膜チューブ挿入術38件（23件）、扁桃摘出術114件（67件）、アデノイド切除術29件（21件）は増加した。全般的に新型コロナウイルス感染症による受診控えの影響は解消されたと考えられた。

扁桃摘出術の適応は習慣性扁桃炎や病巣感染、扁桃肥大による睡眠時無呼吸症候群などである。甲状腺手術では麻酔科にも御協力頂き、反回神経の術中モニタリングを用いている。良性腫瘍の場合は片葉切除、悪性でも低リスクの場合は甲状腺葉切除と気管傍リンパ節郭清術を基本術式としている。頭頸部癌の治療には、放射線治療科、緩和支援治療科と協力し、手術だけでなく放射線治療、化学療法、緩和治療に取り組んだ。HPV陽性中咽頭癌は、化学放射線療法を主体に加療している。NBIを導入して癌の診断、評価を積極的に行っている。頭頸部癌進行例は、治療経験の豊富な浜松医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科に紹介し精査加療を依頼することもある。End stageの症例は原則的に緩和支援治療科の介入

を依頼した。

また手術全般においては一般的な術式を安全確実に実行することを目指し、手術時間の短縮にも努めている。今後も治療成績の更なる向上に努めたい。

（部長 野田 和洋）

・医師数 名 ・専攻医 名  
・初期研修医 0名

（2025年4月現在）

【入院患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新入院	291	298	316	325	362
退院	302	297	314	325	357
延べ人数	2,157	2,221	2,334	2,241	2,473
一日平均	5.9	6.1	6.4	6.1	6.8

【外来患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新来	817	692	680	740	619
再来	10,794	9,900	9,393	9,769	10,005
延べ人数	11,611	10,592	10,073	10,509	10,624
一日平均	39.6	36.2	34.4	35.9	36.3

【平均在院日数】（単位：日）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
日数	6.3	6.5	6.4	5.9	5.9